

## 安全データシート (SDS)

### 1 化学品及び会社情報

#### 化学品の名称

製品名 リークチェック

#### 会社情報

会社名称 株式会社 MonotaRO  
担当部署 商品お問い合わせ窓口  
住所 〒660-0876 兵庫県尼崎市竹谷町 2-183 リベル 3 階  
電話番号 0120-443-509  
Fax 番号 0120-289-888  
緊急連絡電話番号 所在地と同じ  
整理番号 M201014

#### 推奨用途

ガス機器、配管結合部などのガス漏れ検知

#### 使用上の制限

火気の周りでの使用厳禁

### 2 危険有害性の要約

#### GHS 分類

##### 物理化学的危険性

エアゾール 区分 1

##### 健康有害性

眼に対する重篤な損傷性／  
眼刺激性 区分 1  
特定標的臓器毒性（単回ばく露） 区分 2（血液）  
区分 3（気道刺激性、麻酔作用）

##### 環境有害性

分類できない

#### GHS ラベル要素

##### 絵表示



##### 注意喚起語

危険

##### 危険有害性情報

極めて可燃性の高いエアゾール  
高圧容器：熱すると破裂のおそれ  
重篤な眼の損傷

呼吸器への刺激のおそれ  
眠気又はめまいのおそれ  
血液の障害のおそれ

#### 注意書き

##### [安全対策]

熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。  
裸火又は他の着火源に噴霧しないこと。  
使用後を含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。  
粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。  
取扱後はよく手を洗うこと。  
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。  
屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。  
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

##### [応急処置]

吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。  
直ちに医師に連絡すること。  
気分が悪い時は医師に連絡すること。

##### [保管（貯蔵）]

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。  
施錠して保管すること。  
日光から遮断し、50℃以上の温度にばく露しないこと。

##### [廃棄]

内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に依頼して廃棄すること。

#### 他の危険有害性

情報なし

#### 重要な徴候及び想定される非常事態の概要

重篤な眼の損傷  
呼吸器への刺激のおそれ  
眠気又はめまいのおそれ  
血液の障害のおそれ

### 3 組成及び成分情報

#### 化学物質・混合物の区別

混合物

#### 組成及び成分情報

化学名又は一般名	CAS 番号	官報公示 整理番号	濃度又は濃度範囲 (wt%)
水	7732-18-5	-	50~60
N-ラウロイルサルコシン ナトリウム	137-16-6	化審法 2-1226	1~5
ココミドプロピルベタイン*	61789-40-0	化審法 2-1290 2-2707 9-2027	1~5
安息香酸ナトリウム	532-32-1	化審法 3-1272 3-1293	1~3
亜硝酸ナトリウム	7632-00-0	化審法 1-483	0.1~1
ジメチルエーテル	115-10-6	化審法 2-360	35~45

\*化学物質審査規制法 優先評価化学物質

### 4 応急措置

#### ばく露経路による応急措置

吸入した場合

ガスを吸入した場合、新鮮な空気のある場所に移し、安静、保温に努め、新鮮な空気を吸わせるか、酸素吸入を行なう。  
呼吸が困難な場合は、訓練を受けた担当者が酸素を与える。  
呼吸が停止している場合には人工呼吸を行い、速やかに医師の手当てを受ける。

皮膚に付着した場合

皮膚を水で洗い流す。症状が続く場合は、医師に連絡すること。  
液化ガスによる凍傷を受けた場合は、直ちに患部を温水で暖めるとともに、医師の手当てを受けること。

眼に入った場合

噴出ガスが眼に入った場合、多量の水で15~20分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。症状が続く場合には、医師に連絡すること。

飲み込んだ場合

水で口をすすぎ、直ちに医師の診断を受けること。

### 急性症状の最も重要な徴候症状

し眠、窒息、凍傷（液体に触れた場合）  
重篤な眼の損傷  
呼吸器への刺激のおそれ  
眠気又はめまいのおそれ  
血液の障害のおそれ

### 遅発性症状の最も重要な徴候症状

情報なし

### 応急措置をする者の保護に必要な注意事項

救助者は、液体に触れる場合は凍傷にならないような保護具（保護手袋、保護衣等）を着用する。

### 医師に対する特別な注意事項

この安全データシートを担当医に見せる。  
医療関係者が関与する物質を認識し、自分自身を保護し、汚染の拡大を防ぐための予防措置をとる。

---

## 5 火災時の措置

---

### 適切な消火剤

粉末消火剤、二酸化炭素を用いて消火する。

### 使ってはならない消火剤

漏れを止めることができない限り、消火活動をしてはいけない。

### 火災時の特有の危険有害性

加熱により容器が爆発するおそれがある。  
空気と爆発性混合気を形成する。  
火炎に包まれたボンベは、安全弁から可燃性ガスの放出のおそれがある。  
火災時に刺激性、腐食性および毒性のガスを発生するおそれがある。  
衝撃でシリンダーが破損する可能性がある。  
熱や炎にさらされると発火し、爆発の危険がある。  
蒸気は空気より重いため、地面に沿って広がり、低い所や閉鎖された所に蓄積することがある。

### 特有の消火方法

ガス漏れを止められないときは、漏洩ガスの火災は消火しない。  
容器が熱に晒されているときは、移動させない。  
火にさらされた容器を冷却するために、泡消火剤、粉末消火剤、二酸化炭素を使用する。危険でなければ火災区域から容器を移動する。  
安全に対処できるならば着火源を除去すること。  
消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。  
破損したシリンダーは専門家のみが取り扱うこと。

## 消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置

消火作業の際は、適切な自給式の呼吸器用保護具、眼や皮膚を保護する防護服（耐熱性）を着用する。

---

## 6 漏出時の措置

### 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

関係者以外の立ち入りを禁止する。

作業者は適切な保護具（「8 ばく露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

漏洩を発見したら、先ず部外者を安全な場所に避難させ、汚染空気を緊急排気し新鮮な空気と速やかに置換する。

全ての着火源を取り除く。

直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。

風上に留まる。

低地から離れる。

ガスが拡散するまでその区域を立入禁止とする。

密閉された場所は換気する。

### 環境に対する注意事項

周辺環境に影響がある可能性があるため、製品の環境中への流出を避ける。

### 封じ込め及び浄化の方法及び機材

危険でなければ漏れを止める。

散水や水噴霧等により拡散させ、ガスを吸収する措置を取る。

ガスが拡散するまでその場所を隔離する。

少量流出の場合：液体を床用吸収剤、又は他の吸収性材料に吸収させ、回収する。

大量流出の場合：全ての着火源（種火を含む炎、電気火花等）を除去する。

汚染された吸収剤、土壌、その他の物質を廃棄用の容器に移す。

こぼれた製品をポンプや掃除機等で掃き集め、空容器に回収する。

保護具を着用していない人は、清掃が完了するまで漏洩区域から出て行かなければいけない。

### 二次災害の防止策

すべての発火源を速やかに取り除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。

排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

拡散を防ぎ、流出が発生した場合は必要に応じて当局に連絡する。

---

## 7 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

技術的対策

「8 ばく露防止及び保護措置」に記載の措置を行い、必要に応じて保護具を着用する。

安全取扱注意事項

熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。－禁煙。

屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。

ガスを吸入しないこと。

防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。

火花を発生させない工具を使用すること。

接触回避 衛生対策	静電気放電に対する予防措置を講ずること。 容器が空の場合でも残留物が残っている可能性がある。 熱、火花、炎、発火源 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙しないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。
<b>保管</b>	
技術的対策	高圧ガス保安法の規制に従う。 静電気放電に対する予防措置を講ずること。
混触禁止物質	強酸化剤
保管条件	容器を密閉して 40°C 以下の冷乾所で保管すること。 直射日光から遮断し、換気の良い場所で保管すること。 熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から離して 保管すること。－禁煙。 スプリンクラーのある場所に保管すること。
安全な容器包装材料	容器はベルト、ロープ又は鎖等で、転倒を防止し保管する。

---

## 8 ばく露防止及び保護措置

---

### 管理濃度

設定されていない

### 許容濃度（ばく露限界値、生物学的指標）

ACGIH TLV-TWA (2020)	設定されていない
ACGIH TLV-STEL (2020)	設定されていない
日本産業衛生学会（2019）	設定されていない

### 設備対策

取り扱いの場所の近くに、洗眼および身体洗浄のための設備を設ける。  
作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置すること。

### 保護具

呼吸用保護具	必要に応じて保護マスクや呼吸用保護具を着用する。
手の保護具	手に接触する恐れがある場合、保護手袋（不浸透性の手袋）を着用する。
眼及び/又は顔面の保護具	眼に入る恐れがある場合、保護眼鏡やゴーグルを着用する。
皮膚及び身体の保護具	必要に応じて長袖の保護衣、保護エプロン（耐薬品性エプロン）、帯電防止ブーツ等を着用する。

### 特別な注意事項

保護具は保護具点検表により、定期的に点検する。

## 9 物理的及び化学的性質

物理状態	液体
色	透明
臭い	独特な匂い
融点／凝固点	情報なし
沸点又は初留点及び沸騰範囲	100°C
可燃性	情報なし
爆発限界及び爆発上限界／可燃限界	情報なし
引火点	引火せず（タグ密閉式） 測定不能（100°C 付近で沸騰状態）（クリーブランド開放式）
自然発火点	情報なし
分解温度	情報なし
pH	情報なし
動粘性率	情報なし
溶解度	情報なし
<i>n</i> -オクタノール／水分配係数（log 値）	情報なし
蒸気圧	情報なし
密度及び／又は相対密度	情報なし
相対ガス密度	情報なし
粒子特性	非該当
液体密度	1.0 g/cm <sup>3</sup>

## 10 安定性及び反応性

反応性	高温の表面、火花または裸火により発火する。
化学的安定性	高温の表面、火花または裸火により発火する。 通常の状態安定。中性、弱酸性、強酸性、アルカリ性下で不安定。
危険有害性反応可能性	酸素に富む物質（強酸化剤）と接触する場合、激しい反応により発火または爆発が起こる。
避けるべき条件	熱、火花、炎、発火源
混触危険物質	強酸化剤
危険有害な分解生成物	火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガス（二酸化炭素、一酸化炭素）を発生する恐れがある。

## 11 有害性情報

### 製品の有害性情報

急性毒性（経口）	通常取り扱い中での製品を飲み込むと、有害な影響を起す可能性がある。
急性毒性（経皮）	情報なし
急性毒性（吸入：ガス）	情報なし
急性毒性（吸入：蒸気）	情報なし

急性毒性（吸入：粉じん／ミスト）	通常の取り扱い中でこの製品を吸入すると、有害な影響を起す可能性がある。
皮膚腐食性／刺激性	皮膚刺激性を引き起す可能性がある。
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	眼刺激性を引き起す可能性がある。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	情報なし
生殖細胞変異原性	情報なし
発がん性	情報なし
生殖毒性	本製品中には、動物試験で胎児に悪影響を及ぼす恐れがある成分が含まれている。
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	気道刺激性を引き起す可能性がある。 麻酔作用を含む中枢神経系の抑制を引き起す可能性がある。
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	情報なし
誤えん有害性	情報なし

### 成分の有害性情報

#### N-ラウロイルサルコシナトリウム

急性毒性（経口）	情報なし
急性毒性（経皮）	情報なし
急性毒性（吸入：ガス）	情報なし
急性毒性（吸入：蒸気）	情報なし
急性毒性（吸入：粉じん／ミスト）	情報なし
皮膚腐食性／刺激性	情報なし
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	情報なし
呼吸器感作性	情報なし
皮膚感作性	情報なし
生殖細胞変異原性	情報なし
発がん性	情報なし
生殖毒性	情報なし
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	情報なし
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	情報なし
誤えん有害性	情報なし

#### ココミドプロピルベタイン

急性毒性（経口）	ラット LD <sub>50</sub> = 約 1,530 mg/kg
急性毒性（経皮）	31%水溶液 LD <sub>50</sub> > 2,000 mg/kg（有効成分換算値：> 600 mg/kg）
急性毒性（吸入：ガス）	GHS の定義における固体である。
急性毒性（吸入：蒸気）	GHS の定義における固体である。
急性毒性（吸入：粉じん／ミスト）	データ不足のため分類できない。
皮膚腐食性／皮膚刺激性	ウサギの OECD TG 404 に準拠した皮膚腐食性試験が多数報告されており、いずれも軽度の刺激性であるとの報告がある。



眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	ウサギを用いた眼刺激性/腐食性試験（OECD TG 405 準拠）が多数報告されており、いずれも中程度の刺激性と評価されているが、虹彩と結膜への影響が21日以内に回復しなかったとの報告がある。
呼吸器感作性	データ不足のため分類できない。
皮膚感作性	モルモットを用いた皮膚感作性試験（マキシマイゼーション試験、ドレイズ法による試験等）の結果が4試験あり、3試験では陰性の結果が出ている。1試験のみ20匹中4匹に陽性がみられており、不純物に起因することを指摘している。また、ヒトに対する本物質の感作性は低いとの報告がある。
生殖細胞変異原性	<i>in vivo</i> データはなく、 <i>in vitro</i> では細菌の復帰突然変異試験で陰性である。
発がん性	データ不足のため分類できない。
生殖毒性	ラットを用いた経口経路（強制）での発生毒性試験（OECD TG 414）において、母動物毒性（死亡（1/21例が妊娠15日に死亡）、異常な体位（13/21）、立毛（2/21）、運動量の減少、体重減少（対照群の最大17%減）、胃の潰瘍（2/21）、粘膜の肥厚（20/21））が3,300 mg/kg/day（活性成分950 mg/kg/day 相当）でみられ、この用量で吸収胚の増加、生存胎児の減少、胎児体重の減少がみられた。なお、この下の用量である990 mg/kg/day（活性成分286 mg/kg/day 相当）では母動物毒性はみられるが児の発生に影響はみられていない。以上のように母動物に影響がみられる用量においてのみ胎児に影響がみられたとの報告がある。
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	ラットの経口投与試験において、ガイダンスの範囲外の用量（5～10 g/kg）で回復性の自発運動低下、運動協調性欠如、姿勢異常、立毛がみられたとの報告がある。
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	ラットに90日間強制経口投与した試験において、区分2のガイダンス値範囲を上回る用量（150 mg/kg/day）で、前胃の組織変化（雌雄）が、また最高用量（300 mg/kg/day）で、尿潜血陽性例の頻度増加（雄）がみられたとの報告がある。
誤えん有害性	データ不足のため分類できない。
安息香酸ナトリウム	
急性毒性（経口）	情報なし
急性毒性（経皮）	情報なし
急性毒性（吸入：ガス）	情報なし
急性毒性（吸入：蒸気）	情報なし
急性毒性（吸入：粉じん／ミスト）	情報なし
皮膚腐食性／刺激性	情報なし
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	情報なし
呼吸器感作性	情報なし
皮膚感作性	情報なし

生殖細胞変異原性	情報なし
発がん性	情報なし
生殖毒性	情報なし
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	情報なし
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	情報なし
誤えん有害性	情報なし
亜硝酸ナトリウム	
急性毒性（経口）	ラット LD <sub>50</sub> = 77 mg/kg
急性毒性（経皮）	情報なし
急性毒性（吸入：ガス）	GHS の定義における固体である。
急性毒性（吸入：蒸気）	情報なし
急性毒性（吸入：粉じん／ミスト）	ラット 4 時間 LC <sub>0</sub> = 0.0951 mg/L ラット 4 時間 LC <sub>50</sub> = 0.0055 mg/L
皮膚腐食性／刺激性	ウサギの皮膚に本物質 500 mg を 4 時間適用した試験（OECD TG 404、GLP）において、刺激性なし（not irritating）との報告がある。
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	ウサギ 6 匹の結膜嚢に本物質 100 mg を適用した試験（OECD TG 405、GLP）において、中等度の発赤、軽度の浮腫、多量の排出物として結膜への影響が全例に見られたが、12 日目までに消失し、中等度の刺激性（moderately irritating）との報告がある。
呼吸器感作性	情報なし
皮膚感作性	情報なし
生殖細胞変異原性	体細胞 <i>in vivo</i> 変異原性試験として、ラットおよびマウスに経口投与による骨髄を用いた複数の染色体異常試験、マウスに経口投与後の末梢血を用いた小核試験およびハムスターに経口投与後の胎児性細胞を用いた小核試験で、いずれも陽性の結果が報告されている。その他の <i>in vivo</i> 試験としては、マウスを用いた相互転座試験および優性致死試験（生殖細胞 <i>in vivo</i> 経世代変異原性試験）で陰性、マウスに経口投与後の骨髄を用いた姉妹染色分体交換試験で陽性の報告がある。また、 <i>in vitro</i> 試験として多くのエームス試験の結果、および哺乳類培養細胞を用いた染色体異常試験の結果はいずれも陽性が報告されている。
発がん性	ラットおよびマウスに 2 年間飲水投与による発がん性試験において、雌雄ラットおよび雄マウスでは発がん性の証拠は見出されず、雌マウスで発がん性の不明確な証拠として前胃扁平上皮細胞の乳頭腫または癌腫の発生率の増加傾向が認められた。以上の試験結果から、総合的判断として亜硝酸塩の摂取により明らかな発がん性は認められなかったと結論されている。しかし、IARC による発がん性評価では、生体内でニトロソ化される条件下で硝酸塩または亜硝酸塩はグループ 2A に分類され、また、胃の酸性条件下で亜硝酸塩から発生するニトロソ化剤は、ニトロソ化可能化合物、特にアミンやアミドと

生殖毒性	<p>容易に反応し、発がん性物質である N-ニトロソ化合物を生ずるとの報告がある。</p> <p>妊娠マウスの器官形成期に経口投与した発生毒性試験において、母動物が体重増加抑制を示した用量で、着床率および平均同腹仔数の有意な減少、死亡仔および早期死亡の有意な増加が認められ、また、ラットの妊娠期間から授乳期まで経口投与した試験で仔の死亡率の増加と出生時の平均同腹仔数の減少が報告されている。また、ラットの妊娠期間から授乳期まで経口投与した試験において、投与母動物の仔が明らかな貧血となり、赤血球数、ヘモグロビン濃度の有意な低下に加え、肝臓の鉄含有量が有意な減少を示し、さらに投与母動物の乳汁では鉄含有量が対照動物より低く、延いては仔に副作用（貧血）を招いたとの報告がある。</p>
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	<p>本物質の摂取またはばく露により血中のメトヘモグロビン形成を生じ、一部にはチアノーゼが見られ、メトヘモグロビン血症を発現した多数の症例報告がある。なお、動物試験においても、ラットに 150 mg/kg、また、マウスには 100~300 mg/kg の経口投与により、血中のメトヘモグロビン濃度の増加が報告されている。</p>
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	<p>ラットの 14 週間反復経口（飲水）投与試験（雄：30、55、115、200、310 mg/kg bw/day、雌：40、80、130、225、345 mg/kg bw/day）において、雄の 200 または 310 mg/kg/day 群、および雌の 130 mg/kg/day 以上の群でチアノーゼが観察され、網赤血球数の増加に加え、区分 2 相当用量を含むほとんど全群でメトヘモグロビン濃度が上昇したとの報告がある。なお、マウスの 14 週間反復経口（飲水）投与試験（雄：90、190、345、750、990 mg/kg bw/day、雌：120、240、445、840、1,230 mg/kg bw/day）では、関連する所見として、雄の 750 または 990 mg/kg/day 群、および雌の 445 mg/kg/day 以上の群で脾臓の髄外造血が観察されている。</p>
誤えん有害性	情報なし
ジメチルエーテル	
急性毒性（経口）	情報なし
急性毒性（経皮）	情報なし
急性毒性（吸入：ガス）	ラット 4 時間 LC <sub>50</sub> = 164,000 ppm（換算値：309.01 mg/L）
急性毒性（吸入：蒸気）	GHS の定義による気体である。
急性毒性（吸入：粉じん／ミスト）	GHS の定義による気体である。
皮膚腐食性／刺激性	情報なし
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	情報なし
呼吸器感作性	情報なし
皮膚感作性	情報なし
生殖細胞変異原性	<i>in vivo</i> のデータはなく、 <i>in vitro</i> 変異原性における陰性結果との報告がある。

発がん性	ラットを用いた104週間の吸入暴露試験（1日6時間、週5日間）において、良性および悪性乳腺腫瘍が対照群より増加している（36%）が、ヒストリカルコントロールの上限値（53%）とほぼ同程度（52.8%）発生しているため陰性結果とは言いきれない。
生殖毒性	ラットを用いた交配前13日間の吸入試験（1日6時間）において生殖行動、妊娠への影響はなかったが、この動物にさらに妊娠6～16日に吸入暴露（1日6時間）した結果、仔に重篤な変化はみられなかった。しかし、雄の生殖毒性の報告はない。
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	ガイダンス値を超える用量で実施されたウサギの吸入試験（45分）およびイヌの吸入試験（5分）において麻酔作用、血圧の低下、心拍数の増加の記載、また、ヒトにおいて意識喪失、視野喪失、痛覚喪失などの神経系への影響の報告がある。
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	ラットの14日間の吸入試験（1日6時間、週5日間）において10,000 ppmの用量で体重の減少以外に顕著な影響は認められずNOAELは<10,000 ppmとしている。また、ラットの13週間吸入試験（1日6時間、週5日間）において、20,000 ppmの用量でSGOTの増加および肝重量の減少およびSGPTの増加が認められたが、2,000 ppmの用量では認められていない。ハムスターの13週間吸入試験（1日6時間、週5日間）において、20,000 ppmの用量で白血球数の減少の所見が得られたが、10,000 ppmの用量では有意ではなくNOAELを5,000 ppmとしている。
誤えん有害性	情報なし

## 12 環境影響情報

### 製品の環境影響情報

生態毒性	情報なし
残留性・分解性	情報なし
生体蓄積性	情報なし
土壌中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	該当しない

### 成分の環境影響情報

#### N-ラウロイルサルコシナトリウム

水生環境有害性 短期（急性）	情報なし
水生環境有害性 長期（慢性）	情報なし
残留性・分解性	情報なし
生体蓄積性	情報なし
土壌中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	該当しない

#### コカミドプロピルベタイン

水生環境有害性 短期（急性）	藻類（セネデスムス科）72時間 ErC <sub>50</sub> =約 1.3 mg/L
水生環境有害性 長期（慢性）	藻類（セネデスムス科）72時間 NOEC =約 0.09 mg/L
残留性・分解性	BOD = 86～93 %
生体蓄積性	情報なし
土壤中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	該当しない

#### 安息香酸ナトリウム

水生環境有害性 短期（急性）	情報なし
水生環境有害性 長期（慢性）	情報なし
残留性・分解性	情報なし
生体蓄積性	情報なし
土壤中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	該当しない

#### 亜硝酸ナトリウム

水生環境有害性 短期（急性）	魚類（ニジマス）96時間 LC <sub>50</sub> = 0.54 mg/L
水生環境有害性 長期（慢性）	甲殻類（エビの一種）及び藻類（セネデスムス科）NOEC > 1 mg/L
残留性・分解性	情報なし
生体蓄積性	情報なし
土壤中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	該当しない

#### ジメチルエーテル

水生環境有害性 短期（急性）	魚類（グッピー）96時間 LC <sub>50</sub> > 4,000 mg/L 甲殻類（オオミジンコ）48時間 EC <sub>50</sub> > 4,000 mg/L 水溶解度：4.6E+ 4 mg/L
水生環境有害性 長期（慢性）	長期（慢性）としてのデータはない。
残留性・分解性	情報なし
生体蓄積性	情報なし
土壤中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	該当しない

---

## 13 廃棄上の注意

---

### 残余廃棄物

廃棄においては、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従うこと。  
都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、または地方公共団体が廃棄物処理を行っている場合はそこに委託して処理する。

### 汚染容器及び包装

関連法規制ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

## 14 輸送上の注意

### 国際規制

陸上輸送（ADR/RIDの規定に従う）

国連番号	1950
品名（国連輸送名）	エアゾール（引火性のもの）
国連分類（輸送における危険有害性クラス）	2.1
副次危険性	-
容器等級	-

海上輸送（IMOの規定に従う）

国連番号	1950
品名（国連輸送名）	エアゾール（引火性のもの）
国連分類（輸送における危険有害性クラス）	2.1
副次危険性	-
容器等級	-
海洋汚染物質（該当・非該当）	非該当
IBCコード（該当・非該当）	非該当

航空輸送（ICAO/IATAの規定に従う）

国連番号	1950
品名（国連輸送名）	エアゾール（引火性のもの）
国連分類（輸送における危険有害性クラス）	2.1
副次危険性	-
容器等級	-

### 国内規制

陸上規制情報	高圧ガス保安法、道路法に従う
海上規制情報	船舶安全法に従う
海洋汚染物質	該当しない
航空規制情報	航空法に従う

### 輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策：

輸送に際しては、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。  
内容物は40℃以下で保管すること。  
地面への落下、破損、上下逆さまに保管しないこと。

## 15 適用法令

### 該当法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

化学物質審査規制法	優先評価化学物質（〔3-アルカンアミド（C=8, 10, 12,14,16, 18, 直鎖型）プロピル〕（ジメチル）アンモニオ〕アセタート又は（Z）-〔3-（オクタデカ-9-エンアミド）プロピル〕（ジメチル）アンモニオ〕アセタート）
化学物質排出把握管理促進法	該当しない
労働安全衛生法	該当しない
消防法	非危険物
毒物劇物取締法	該当しない
水質汚濁防止法	有害物質（アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物）
水道法	有害物質、水質基準（ナトリウム及びその化合物、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素、亜硝酸性窒素）
海洋汚染防止法	有害液体物質（Z類物質）（安息香酸ナトリウム） 有害液体物質（Y類物質）（亜硝酸ナトリウム溶液）
航空法	高压ガス
船舶安全法	高压ガス
港則法	高压ガス
道路法	車両の通行の制限
高压ガス保安法	適用除外（エアゾール）
外国為替及び外国貿易法	輸出貿易管理令別表第1の16の項（不飽和非環式モノカルボン酸及び環式モノカルボン酸並びにこれらの酸無水物、酸ハロゲン化物、酸過酸化物及び過酸並びにこれらのハロゲン化誘導体、スルホン化誘導体、ニトロ化誘導体及びニトロソ化誘導体） 輸出貿易管理令別表第1の16の項（エーテル、エーテルアルコール、エーテルフェノール、エーテルアルコールフェノール、アルコールペルオキシド、エーテルペルオキシド及びケトンペルオキシド（化学的に単一であるかないかを問わない。）並びにこれらのハロゲン化誘導体、スルホン化誘導体、ニトロ化誘導体及びニトロソ化誘導体）

## 16 その他の情報

### 参考文献

株式会社 MonotaRO 提供資料

NITE GHS 分類結果一覧（2020）

日本産業衛生学会（2019）許容濃度等の勧告

ACGIH, American Conference of Governmental Industrial Hygienists (2020) TLVs and BEIs.

【注意】本 SDS は、JIS Z 7253:2019 に準拠し、作成時における入手可能な製品情報、有害性情報に基づいて作成していますが、必ずしも十分ではない可能性がありますので、取扱いにはご注意ください。本 SDS の記載内容については、新しい知見等がある場合には必要に応じて変更してください。また、注意事項等は通常の取扱いを対象としたものですので、特別な取扱いをする場合には用途・条件に適した安全対策を実

施の上、お取扱い願います。